

23rd 全国曹洞宗青年会

sousei

190
2020.08

特集① 「連載『過疎』と向き合う」拡大版

都市開教 『寺院消滅』の著者 鵜飼秀徳師インタビュー

特集②

新型コロナウイルス禍での青年僧侶の取り組み

- ・ WFBY 会長・村山博雅師インタビュー
- ・ 全曹青リアルボイス 教化委員会
- ・ 全曹青レポート SDGs について
- ・ 全曹青からのお知らせ
- ・ 映画『典座 - TENZOU -』展開報告
- 『坐禅で使える僧侶の英会話』鋭意制作中



特集① 連載「『過疎』と向き合う」拡大版

都市開教

『寺院消滅』の著者

鵜飼秀徳師インタビュー

鵜飼秀徳 師 プロフィール

京都府正覚寺副住職。一般社団法人「良いお寺研究会」代表理事、佛教学・東京農業大学非常勤講師。昭和49年、京都市嵯峨の正覚寺に生まれる。『日経ビジネス』記者、『日経おとなのOFF』副編集長などを歴任。2015年に手がけた『寺院消滅 失われる「地方」と「宗教』』はベストセラーに。著書に『無葬社会 彷徨う遺体 変わる仏教』（2016年、日経BP）『ペットと葬式 日本人の供養心をさぐる』（2018年、朝日新書）、『仏教抹殺 なぜ明治維新は寺院を破壊したのか』（2018年、文春新書）など多数。最新刊に『ビジネスに活かす 教養としての仏教』（2019年、PHP研究所）。

過疎問題を考えていくと、その裏返しとして人口集中による都市部での布教拠点不足といった問題が見えてきます。寺院は人と違い簡単に移動をすることはできませんが、大本山總持寺は明治維新後の時代背景を踏まえ、約100年前に現在の横浜市へと移りました。都市部への布教拠点として、禅の魅力をいまに伝えていきます。そんな中、刻一刻と変化する時代に合わせ、「都市開教」という布教形態も生まれました。今号では『寺院消滅』の著者であり、ご自身も浄土宗の僧侶である鵜飼秀徳師に、幅広い取材で見えてきた都市開教についてお話を伺います。

まず、都市開教の定義について教えてください。

鵜飼師 そのためには「開教」の歴史を振り返る必要があります。江戸時代、仏教は江戸幕府の一部に取り込まれていました。檀家制度のもと、各地域に一村一寺ほどの割合で寺院を設け、寺院を通じて江戸幕府は人々を管理していたわけです。当然、寺院は宗教的な役割以外にそのような役割も負わされてきましたから、その数は固定化されてしまいます。17世紀半ばからは、現実的には新規のお寺はほとんど建立されなかった。

仏教教団の自主的な寺院建立は明治維新时期になります。廃仏毀釈で仏教空白地帯となった地域に、その後、浄土真宗等が積極的に布教をした。それが近代では初めての自主的な寺院開教でしょうか。

また、明治維新以降、それとは違う流れでの開教もありました。蝦夷开拓地や琉球への寺院開教がそれです。こちらは政府の殖産興業に寺院がついて行った形ですね。ハワイやブラジルへの移民についていった海外開教の流れもこの一部と言えるでしょう。

そして現在は、高度経済成長期以降、人口が地方から都市部へ流れた。それ

に合わせて都市部で開教しよう、という動きが現代の開教でしょうか。

総じて、人間の営みがあるところに開教していく、ということですね。政治的な目的を持っている場合もあったにせよ、人の集まる場所に宗教施設を作るとするのは、人間の本能と言っても良いのではないのでしょうか。

—「開教」という言葉の意味は、戦前においては布教としての側面よりも殖産興業など政治的な側面が強かったと。

鵜飼師 歴史的に見ればそういう側面が強かった。もちろん個々の宗教者の理念もあったでしょうけれども。

開教に取り組む上で一番大変なのは、次代に受け継ぐための仕組み作り

—様々な開教寺院を取材されていますが、開教に取り組む僧侶が突き当たる困難について教えてください。

鵜飼師 寺院を立ち上げたは良いがこれをどうやって次の世代に繋いでいくか、それについて悩んでいる気がします。どうやって次の世代に寺院を繋いでいくか。そのために自分は、繋いで

いけるようなシステムをどうやって考え出せば良いか。開山上人としての悩みがあるのではないのでしょうか。それが開教の一番の苦労だと思います。

—寺院を開教してから軌道に乗せるまでに困難があるのではなく、次代に引き継ぐシステムを考えるのが本当の困難ということですか。

鵜飼師 住職の気力と体力とバイタリテイがあれば、軌道に乗せるまではそれほど大変ではないと思います。こんなこと私が言うと怒られるかもしれませんが（笑）。良くも悪くも自分だけで完結する話ですからね。しかし、次代に繋ぐとなると、自分とは全く違うパーソナリティーを弟子として養成しなくてはならないのです。これは大事で、かつ大変です。

社会から必要とされる寺院をつくるという意識を持つべき

—開教に取り組んで寺院を増やすほど、寺院は必要とされているのでしょうか。

鵜飼師 経済的に考えれば、寺院を増やす時代ではないのです。なぜなら日本の人口はどんどん減っています。2



インタビューに取り組む中野庶務と秋元広報委員

050年〜2060年頃には1億人を割ると言われています。

けれども、ここからが大事なのですが、寺院が必要かどうかは経済が決めることではありません。社会が決めるべきことなのです。現在の全国の寺院数は7万5千カ寺ですが、江戸時代は3千万人という人口に対して9万カ寺がありました。これが適正な寺院数だったのです。それは社会の中で個々のお寺が必要とされ、また上手く機能していたからです。現在は1億3千万人という人口に対して7万5千カ寺という

寺院数が適正ではないから、空き寺が増えている。ちなみに現在の適正寺院数は6万カ寺ほどでしょう。なぜなら有住寺院数がその数だからです。でもそれはあくまで数字上の問題であって、心の問題ではありません。

お寺の伽藍や歴史に寄りかからない僧侶を目指す

鵜飼師 仏教の教えを広めるため、寺院を建立し、布教して信者数を増やすというのは宗教家の本分です。宗教家の使命と言っても良い。経済的に寺院数が足りているかどうかは二の次の問題です。歴史も伽藍も立派だけれども、あまりやる気のない僧侶を抱える寺院が淘汰され、開教によって社会に必要とされる優れた知見を備えた僧侶が住職する寺院が増えて行く。そのような



『寺院消滅』この本の中で鵜飼師は都市開教に取り組む僧侶たちを取材している

形がこれからの開教ではないでしょうか。

—社会に必要とされる、残っていくお寺とはどういうものでしょうか。

鵜飼師 これからは檀信徒の方たちがお寺の歴史や伽藍ではなく、そこにいるお坊さんの人柄を見て評価する時代になると思います。ですから、住職になった以上はお寺の伽藍や歴史に寄りかからず、開教寺院の気概を持って活動する寺院が残ると思います。

「都市部で寺院を増やすと、地方寺院から檀信徒が流れてしまう」という誤った考え

—それに関連してですが、都市開教に対して及び腰な教団が多い理由は、都市部の寺院に檀信徒が流れて、地方の寺院が弱体化してしまう懸念があるような気がします。それについてどう考えるべきでしょうか。

鵜飼師 まず、「都市に寺院ができると、うちのような地方の寺院は檀信徒が減るじゃないか」という理屈は間違っています。都市開教は人口動態に合わせて寺院を作ろうという試みで、過疎に

おける寺院の消滅とは切り離して考えなくてはなりません。その地域で寺院が不必要になれば消えるのです。都市部に新たな寺院ができたから消えるということではない。それを言うならば、地方にあるお寺を閉めて都市部に移りますか、ということですか。それはできないですよ。なぜなら都市開教と過疎による寺院消滅は違う問題だからです。

—「開教」において寺院の伽藍というのは重要でしょうか。

鵜飼師 開教寺院で気をつけるべきことは、細く長く続けるということです。いくら手元にお金があっても、立派すぎる伽藍を作らない方が良いでしょうね。

お釈迦様の「法」を伝えるという役目を見失わないこと

鵜飼師 開教に限らず、目に見える形での成果を僧侶も追求してしまいます。立派な伽藍、信者数の多寡。しかし、僧侶は商人ではないわけです。それを追求してしまうと、短期的には上手くいくでしょうが、長期的に人は離れていく。「法」をいかに伝えていくか、

結局のところそれを考えるのが一番大事だと思えます。

聞き手／過疎問題担当庶務 中野孝海
 広報委員 秋元憲裕
 文／広報委員長 田ノ口太悟



京都・嵐山の正覚寺本堂前で

ゼロからのスタート 都市部における新寺建立

日蓮宗では平成22年から国内開教制度を導入し、都市部における新しい寺院の建立を支援してきました。今回は日蓮宗における国内開教師第1号であります一妙寺いちみょうじご住職赤澤貞禎師あかざわていしんにお話を伺いました。

○きっかけは温度差

私は元々在家の出身で、中学生の時に身延山久遠寺みのぶさんくおんじにお参りをしたことがきっかけで僧侶となりました。資格を得た後は、都内のお寺で住み込みのお手伝いをしていたのですが、そこで寺側と檀信徒側との間に温度差、布施の在り方やお寺の護持に纏わる意識のズレがあることに気付きました。長い時間の中で生じた問題を改善するためには、ゼロからお寺を作り、システムを根本から変えなければならぬと感じたのです。

○険しい道程

まず私が最初に取り組んだのは、駅前の辻説法とチラシのポスティングでした。しかし、いくら熱心に取り組んでも結果には繋がらず、焦りや不安だけが募りました。

転職となったのが、同じ組寺のご住職から依頼された彼岸会の説法でした。辻説法の時とは全く異なる反応を肌で感じ、自分が僧侶として活躍できるのは仏事の場合であると再認識できたのです。

○常に「今」以上の努力を

考えを改めた私は、仏事の依頼を集めるために僧侶派遣会社に登録しました。依頼された仏事をこなしていく中で、御縁へと繋げるために様々な工夫を凝らしました。引導文の内容。お戒名の渡し方。仏事の案内やお礼状は一枚一枚筆で書き、一度仏事をお勤めした方々には寺報を毎月お届けする。去年と同じを保とうと思ったら、去年の120%以上頑張らないといけません。すごく大変です。でもとても大事なことです。

○僧侶に望むこと

今僧侶の間では、青年会をはじめ、自分たちの存在をより身近に感じてもらうために様々な活動に取り組んでいます。素晴らしいとは思いますが、僧侶の本分である仏事に徹してもらいたいとも考えています。世の中にはいろんな感動があるように、仏事にも感動を与える力があります。その上で自分の中で一番熱量のあるものを仏教に当てはめ、ご自坊の環境にあった形でブランド化して欲しいと考えています。

○後継者について

一妙寺には現在後継者と呼べる存在がおりません。ですが、いつの日か必ず「住職をやらせてほしい」という熱意を持った後継者が現れると信じています。世襲ではこのお寺を維持していくことは絶対に不可能です。その時が来たら私の想いを全力で伝えたいと考えています。それが一番の布教ですし、生き生きとしたお寺になるためのエネルギー源ですから。

文／過疎問題担当庶務 中野孝海



一妙寺住職 赤澤貞禎師

昭和55年生まれ。平成22年に日蓮宗で初となる国内開教師となり、4年後に自身が開祖となる一妙寺を東京都国立市に創設した。現在は仏事を中心に様々な布教活動に専念している。今年4月にはその布教興学の在り方を称え、日蓮宗より二級法功章を授与されている。

東京 恵比寿 台雲寺 都市部における問題点

過疎問題を考えるうえで、過疎地域のみならず都市部についても併せて考えることによって見えてくるものもあるのではないだろうか。曹洞宗寺院の都市部における実情の一端として、入寺してからの活動や問題点について東京都渋谷区恵比寿にある台雲寺（たいうんじ）の上野憲一住職（のけんいち）に語っていただきました。

○増加する無縁墓地

私が縁あって台雲寺に入ったのは、平成27年のことです。私は恵比寿育ちです。ここに地縁がありました。また、私の師匠と台雲寺の先住が親交が深かったこともあり私にお話しをいただきました。

台雲寺に入り、まずはじめに取り組んだのは、檀家台帳や墓地図の見直しでした。出生率の低下や人口減少、高齢化の影響を受けているのか、無縁になることを心配する檀家さんや墓仕舞いを検討する方も増えており、その把握と永代供養塔の建立は急務であると感じたからです。この傾向は今後、全国的に増えていくのではないのでしょうか。

○新しい価値感への対応と工夫

一方で、新しく都市部に墓を求めめる方が多いのも事実です。多種多様な価値感にも対応するため、今後は樹木葬やペット供養、水子供養なども受け入れられるよう準備を進めています。また、都会にあっても心安らぐ場所にしようと庭師さんとも相談し植物を配置し四季の移り変わりを感じる事ができるよう考えております。しかし、回りをビルに囲まれていて、石屋さんなどの工事業者が重機やトラックを入られなくて、隣のビルの敷地を利用して作業するなど大変な面もあります。限られたスペースを有効に使っていくことが都市部における寺院には求められます。

○都市部における反響

地方より都市部、高齢者世代より若い世代になるにつれて、仏教への関心が低くなる傾向があるようですが、坐禅会や精進料理教室、お茶会などを開催すると都市部の若者や、檀家でない方にも大きな反響があります。これにすぐに、菩提寺と檀家という関係に結びつくわけではないですが、都市部において必要とされておられ、仏教に触れるよい機会になっているということは事実です。

○必要とされる存在に

昨今、新規の業者の進出、葬儀や法事を行わないケースも増加しており、そのような状況を危惧するとともに、簡素・簡略化の流れに歯止めをかけるのは私たちの責務であると痛感しております。私たち僧侶は長い間、先祖供養を担ってきました。実際、近親者の葬儀や法事といった場が一番仏教や生死について身近に感じることができ、真剣に考えさせられる場であると思えます。そこで敬いの心や感謝の気持ちを養うことはとても大切なことだと思えます。これからの時代においては、私たち僧侶は常に危機感をもって、世の中に必要とされる存在になる為に試行錯誤、研鑽を積んでいかなければならないのではないのでしょうか。



お茶会



文／広報委員 秋元憲裕

台雲寺住職 上野憲一老師
昭和41年生まれ、駒沢大学卒業、
大本山永平寺安居、裏千家師範、
永平寺東京別院茶道講師
台雲寺・正法寺・長昌院住職、サ
ンフランシスコELS終了、元英
語塾講師

特集まとめ 「都市」から考える 過疎問題

日本の過疎問題は高度経済成長に沸く、昭和30年代以降の大規模な人口移動が起因のひとつとされています。その人口移動の流れは現在も続いており、特に東京圏への人口流入は今後も増加傾向にあると総務省は予測しています。この度の特集では、そうした時代背景を踏まえながら、人口が集中する都市部での布教形態のひとつである「都市開教」を取り上げ、鵜飼師へのインタビューに加え、東京都に伽藍を構えるご寺院様を取材させていただきました。まず鵜飼師からは、「都市開教」のみならず、「開教」そのものの歴史やご自身の取材から明らかになった開教寺院の実情などを伺いました。なかでも開教に総じて言えることとして、「人間の活動があるところに開教していく」という言葉は印象的でした。

次に鵜飼師の著書でも紹介されている、国立市一妙寺・赤澤師から、国内開教の先駆者として、ゼロから寺院を建立し現在に至るまでの貴重なご経験をお聞きしました。そして、東京が江戸と呼ばれていた時代からの歴史を有する台雲寺・上野老師には、長い歴史を有する寺院だからこそ感じられる変化、また都市部ならではの苦悩をお話しいただきました。

都市部の諸事項は、一見過疎問題と無関係のように思われます。しかし、マクロな視点で見れば決して無関係とは言えず、その問題の多様性や広域性が国難とも称される所以でもあります。だからこそ、過疎地や都市部に限定することなく、お互いがお互いの強みと弱みを補完しあうところに解決の糸口が見つかるのかもしれないでしょう。それは寺院も同じではないでしょうか。過疎地寺院の現状や取り組みだけでなく、都市部寺院の現状や取り組みをも同じ組そじょう上に載せてこそ、仏教界の抱える過疎問題への対応は飛躍的に進展するのではないかと思えます。

現在の人口移動は政治的要素が強かったこれまでのものとは異なり、限りなく自由な移動です。ゆえに地方から都市部への移動だけでなく、その逆を選択する人も一定数存在します。寺院にとつての「人」の移動は「檀信徒」の移動と言っても過言ではなく、その檀信徒にとっては、「菩提寺」と相互関係にある「宗旨（曹洞宗）」もこの上な

く大切です。自由に人々が移動することがスタンダードとなり、さまざまな価値観が受容されつつある今だからこそ、社会的要因に左右されることなく、多くの方が曹洞宗の宗意安心に親しむことができる環境づくりも必要なのかもしれません。

結びに、今回の特集に快く協力してくださいました鵜飼秀徳師、赤澤貞真師、上野憲一老師にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

文／過疎問題担当庶務 堀江紀宏



鵜飼師と正覚寺山門前で

新型コロナウイルス禍での青年僧侶の取り組み



新型コロナウイルスの影響により、世界各国で外出自粛生活が続いています。寺院においても、未だ従来の法要や檀務を務めることが出来ません。そしてそんな状況が続く中、不安を抱える僧侶も少なくありません。しかし、この状況だからこそ生まれた新たな取り組みも存在します。こちらではそんな新しい取り組み、青年僧侶の努力の姿をお伝えいたします。

● 全国曹洞宗青年会の取り組み

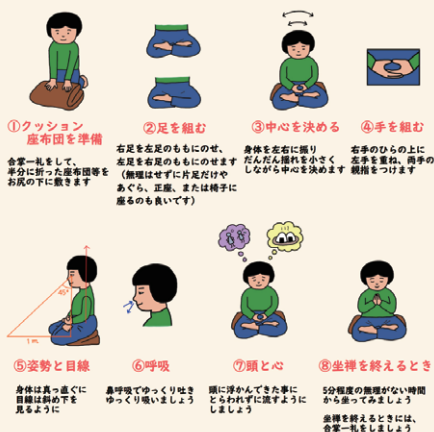
先ずは私達全曹青の取り組みをご紹介します。新型コロナウイルスの影響により、自宅で過ごす皆さまに少しでも心豊かな時間をお届け出来るよう、全曹青でもこんな取り組みを行いました。

「おうちで坐禅してみよう」

自宅でも気軽に坐禅を組めるよう、イラスト付きのパンフレットと全曹青公式 YouTube に動画を作成いたしました。動画は日本語と英語の2種類、イラストに合わせた音声解説を添えています。パンフレットはPDFデータを公開し、自由にダウンロードしていただけます。ダウンロードしたデータは全てA4サイズで印刷いただけます。こちらは日本語と英語だけでなく、ブラジルポルトガル語の3種類を公開しています。動画とパンフレットを合わせて、さまざまな場所でお役立ていただきたいと思います。

おうちで坐禅をしてみよう！

こんな時だからこそ静かな時間を作りませんか？



テレビやスマホから一旦離れ、不安でいっぱいな心を解放しましょう
全国曹洞宗青年会



「おうちで写経のすすめ」

写経で心を調える事が出来るよう、「おうちで写経」パンフレットを作成いたしました。初めての方が一人でも実践できるように、簡略化した作法で作成いたしました。こちらは日本語版と英語版の2種類を公開しています。今後、写経会の際のパンフレットとしてもお使いいただきたいと思います。

さらに「新型コロナウイルス退散」を祈念するために、お経「消災妙吉祥陀羅尼」の写経用紙も作成いたしました。一日も早い事態収束を願い、おうちで写経に挑戦していただけます。お経の漢字は難しいですが短いため、写経の体験にもお使いいただけます。またお子さん向けにひらがな版も公開しています。



消災妙吉祥陀羅尼
 曩謨三滿哆 母駄喃 阿舍
 囉底賀多舍 娑裏喃 坦姪
 他 唵 法法 法四法四
 吽吽 入嚩囉入嚩囉 舍囉
 入嚩囉舍囉入嚩囉 底瑟訶
 底瑟婆 致瑟哩致瑟哩 娑
 唎瑟婆 唎 扇底迦 室哩
 曳娑婆訶
 右為 新型コロナ悪疫退散
 敬写

これらの取り組みは、
 全て全曹青公式ホームページ
 「般若」で公開しています。
 是非一度ご覧下さい！



子どもの一時預かり「臨時の寺子屋」

静岡県静岡市 一乗寺
住職 丹羽崇元 師

にわさげん
いちじょうじ



子どもの一時預かりを始められたきっかけは？

3月上旬、全国小中学校一斉休校のニュースを耳にし、お寺で何かできることはないだろうかと考え、主に低学年の児童の一時預かりを実施しました。折しも昨年、本堂の改修工事が終わり、平時は心のお休み処、有事には避難所として利用できるよう工夫を重ねてきました。人との接触自体が問われている中で非常に悩みましたが、自宅待機でのストレスを抱える子どもたちの息抜きになればと考えたのがきっかけです。

最初に行動されたことは？

休校のニュースを聞いてすぐに教育委員会に連絡をし、判断を仰ぎました。また過去に主催したお寺イベントで生まれたご縁によるママ友さんや医療・保育関係者の方からも情報収集し助言を頂きました。その上で、日々更新される情報に対応する柔軟性を重視し、消毒・検温等できる限りの対策を講じ受け入れのガイドラインを作成しました。

参考にされた事例や歴史は？

当山三代前の住職、永平寺77世丹羽廉芳禪師の時代に学童疎開の児童ら約120名を半年間受け入れたという歴史があり、今回の取り組みに対し背中を押してくれました。また、SNSを通じて知ることのできる全国のお寺の取り組みや、地域で活動してきた様々なネットワークも活かされたと思います。



丹羽崇元 師

見えてきた課題は？

法務との両立です。本堂で法要をしている間は別棟を利用したり外遊びに誘導したりと、臨機応変に対応しました。また寺族、保育スタッフのセルフケアやモチベーションの維持も留意する必要がありますと感じました。更に、コロナ禍以前から訪れていた方々にとっては間診票や検温がハードルになり、かえって寺との距離が生まれてしまったことも新たな課題としてとらえています。

青年僧侶へメッセージをお願いします

学校や学童といった公的セーフティネットの隙間を埋める「第三のセーフティネット」としてお寺が活かされればと思います。本心に問いかけて、「善い」と思うことは、素朴なことからとにかくやってみる。頂く批判は助言と受け止め、ひたむきに続けていると自然にご縁が繋がります。いつでも一番の障壁は自分自身なので、常に最適解を追い求める姿勢だけは持ち続けるようにしています。

取材／広報委員 米澤高志



大きなお絵かきスペース



本堂の様子

お寺で図書館「おてら文庫」

秋田県羽後町 能持院 のうしん

副住職 尾久雄人師 おみゆう へいじん



おてら文庫を始めた経緯とは

もともとお寺にはたくさんのお本があり、以前から本の紹介コーナーを作りたいと考えていました。そんな中で外出自粛の生活が始まり、学校や図書館も閉まることになりました。そこで、本によってお家で過ごす時間を豊かに出来るのではないかと考え、貸し出しを始めました。現在は約100冊を並べています。母が長年保育士を務めていましたので、母に絵本を選んでもらいました。師匠と私は読みやすい仏教書を中心に考え、連れ合いには好みの本を選んでもらいました。

反響はいかがでしたか？

本を並べる事で本堂の雰囲気も変わり、本から会話が生まれる事も多かったです。絵本は私が子供の頃のものが多く、利用者の方と一緒に懐かしさを共有できました。ちょうど今おばあちゃん世代の方からすると、お子さんに読んであげた事がある本が多く並んでいます。その頃のお子さんも今は私と同じ親の世代となり、お孫さんと一緒に本を選んで下さいます。その事がとても印象に残っています。

注意した点や、貸し出しの手続きは？

来山時にはマスクと入り口での消毒を呼びかけ、返却後の本の消毒には気を付けました。返却期限はありません。手続きも連絡先をメモするだけです。気軽に取り組む事ができました。

今後の展開は？

おてら文庫は今後も常設する事としました。蔵書を増やし、季節に応じたラインナップを考えています。返却時に受け取るだけではなく、次の本をおすすめしたり、会話を楽しみたいと思います。考えてみるとお寺の行事は、僧侶が前面に出る事が多い。しかしこの取り組みは、家族全員が直接関わられる楽しさがあります。皆で取り組む事で、本をきっかけにお檀家さん達と関わる事が出来ます。今後も続けていきたいと思っています。



図書スペース

最後に、おすすめの本を教えてください

ヨシタケシンスケ『このあとどうしちゃう』をおすすめします。

この絵本に「死を考えることで、逆に浮かび上がってくる生」という、仏教にも通ずるものを感じました。またおじいちゃんの想像した天国や地獄がとてもおもしろく、大人でも楽しめると思います。全お寺に1冊あっても良いと思います。



ヨシタケシンスケ著 『このあとどうしちゃう』

取材／広報副委員長 菅悠生



尾久雄人師



利用者の様子

ZOOM坐禅

滋賀県米原市 青岸寺 せいがんじ

住職 永島匡宏師 ながしまきやうこう

オンライン坐禅を始めたいきっかけは何でしょうか？

新型コロナウイルス蔓延により坐禅会を中止にせざるを得ない状況の中、人の結びつきなど様々なことを考えていました。また、自粛中に強いストレスを抱えている方も多いと思い、曹洞宗の僧侶として心のケアのお手伝いが出るのではないかと考えました。その時ZOOMでヨガ教室をしてらっしゃる先生のお誘いや参禅者の方からの後押しにより始めたのがきっかけです。



永島匡宏 師

オンライン坐禅をやっている心掛けていることは何でしょうか？

普段の坐禅会のように一から説明することはできないので、説明するところの取捨選択が必要な事ですね。あとは普段の坐禅会と変わりません。とりあえず一歩踏み出して実践することが大事です。

オンライン坐禅会を主催する場合の注意点を教えてください

お寺の外部の方からすると寺院主催のイベントは敷居が高くて、初めての方は参加し辛いのが現状です。私の場合にはヨガですが様々なものとコラボして取り入れていけば、お寺と縁のなかつた方も入ってきやすくなると思います。まずはチャレンジしてみる事です。そこから人との繋がりが広がっていき出来る事が増えてきます。失敗することも多いですが、その都度考え、直していけばいいと思います。

今後の活動についてどのように考えていますか？

曹洞宗として動かなくてはならないのは、まさに今だと思っています。オンライン坐禅会に参加してくれた方々にも悩みやストレスを抱えている方がいたはずで。そのような方々の悩みやストレスを解消できるような地道な活動をするのが大事だと思います。そして、現状で自分ができる最善の事を行うべきだと思います。

取材／広報委員 石原顕成



ZOOM 坐禅中のモニタウ

参禅者

Real Voice

・今度はお寺にお寺に行き坐禅をしてみたいです。

・オンライン坐禅を通して様々な方と繋がることが出来ました。次は本堂でお会いできればいいなと思います。またオンラインにも良さがあるので続けていってほしいと思います。



ZOOM に使うパソコン配置を工夫

村山博雅師インタビュ

曹洞宗で「国際」とつくと国際布教や国際ボランティアが真っ先に思い浮かびます。今回は国際交流にスポットをあてました。国、文化、世代を超えて「仏教」を通して世界中の人々と交流をする世界仏教徒青年連盟（以下WFBY）。その会長を務める村山博雅師のインタビュをお届けします。

グローバル化が進みボーダーレスな時代に国際仏教の最前線で活躍する村山師が海外での活動から何を体験し、どんな想いを抱いたのでしょつか。

WFBYとはどんな団体ですか？

WFBYとは、未来を担う青年たちの仏教に対する理解を広め、深める事を目的に結成された国際ネットワークです。現在では16ヶ国、42の国を代表する仏教団体が会員として加盟する世界最大の国際仏教青年会に成長しています。

WFBYの活動は、「I B Y E (International Buddhist Youth Exchange)」に代表されるような、様々な国際交流プログラムやリーダー育成研修などを通じ、世界中の青年仏教徒の交流を促進すると共に、仏教に基づいた人材の育成に取り組んでいます。

世界では貧困、環境、人権、教育など様々な問題について混迷を極める時代にあつて、WFBYのもつ仏教徒による世界規模のネットワークは、これからの時代に重要な役割を担うことができると確信いたします。今後さらに各国の青年仏教徒との交流を深めることによって、次世代を担う盤石たるネットワークを構築し、世界平和への貢献と仏教の宣揚を目的に活動していき

たいと思っています。

I B Y Eとは何ですか？

WFBYが主催する国際交流プログラムの一つで「国際仏教徒青年交換プログラム」と訳されます。WFBY加盟国の青年仏教徒が互いの国を訪問しその地での仏教文化を学び、国際的な視野を広げ社会で活躍できる人材を育成すると共に、また「共通認識」を高め、お互いへの敬意と理解のもと、仏教徒の善友として世界に広がる友好関係を「仏教を通じて」築くことを目的として行われています。

日本人参加者からは「国が違って、言葉が通じなくても、仏教を通して繋がれる」という感覚を知れたことは、かなり大きな収穫でした」と感想を頂いたこともあり、若者が国際的に多くの「気づき」を得られる場所として、WFBYに大変相応しいプログラムと言えます。

2001年に初開催され今日まで多くの青年仏教徒が参加しました。このI B Y Eの経験者が大人になり、WFBY役職を務めることも多く、その繋がりと経験をもとに、世界中あらゆる方面で仏教徒として活躍しています。

海外へ目を向けることとなったきっかけは？

もともと国際活動には、地元仏教会やボランティア国際ボランティア会を通じて参加してはいたのですが、実際に頻繁に海外に行くきっかけとなったのはやはり、2011年、WFBYに加盟する全日本仏教青年



スリランカの大僧正と親しく国際交流をする村山師

会（以下、全日仏青）の理事長に就任したことです。また当時、大変間違つて拡散され続けていた、東日本大震災の原発事故に対する海外からの風評による被害の払拭のため、仏教者として何か出来ることはないかと考えたのが、特に全日仏青理事長として深くWFBYに関わろうと決意した理由でもありました。

WFBYを通して日本の「正しい現状」を世界に発信していきたいと考えた私は、諸先輩方に勧められていたWFBYの副会長選挙に立候補いたしました。皆様のおかげをもちまして当選し、以後現在に至るまで、志を同じくする仲間とともに、海外の僧侶や仏教徒との交流を積極的に行つてまいりました。



タイ国開催世界仏教徒青年交換プログラム IBYE2019

国際交流（活動）で得たもの、感じたものは？

国際交流活動によって得られた大事なことは、世界に広がる仏教の中の一つとしての日本仏教が一体どう理解されているのかということ、良くも悪くも多面的に、経験的に知ることができたということでしょうか。また、アジア各国における仏教に対する一般的価値意識と、日本における仏教に対する価値意識の違いを体感するとともに、今後、グローバルかつボーダーレスな時代には、世間一般の人々と、ともに悩みともに歩む日本仏教の社会参画性が、さらに国際的なニーズを獲得していくであろうことに希望を見いだせたことも、大変ありがたく思っています。

そして、これから仏教国へ渡航する機会を持つ若い僧侶の方々に是非伝えたいことがあります。ちゃんと法衣を着て僧侶として海外の仏教国に行くと、社会からしっかりと、僧侶として扱われますので、「自分が僧侶である」という自覚を日本にいる時よりも強く持つ事ができます。ご存じの通り、アジアの仏教国においては、積尊の教えを率先して学ぶ僧侶は尊敬されるべきであるとする社会規範が存在します。また、合掌をして挨拶を交わすなど、多く日常の何気ない仏教的な所作が、当たり前前に続けられています。いろんな場面で僧侶として生きることの重要な意義を再確認出来ることは、貴重な機会となるでしょう。

これからの若手僧侶に求めるもの

若手僧侶の皆様には、是非とも積極的に

国際行事に参加し広い視野を養い、グローバルスタンダードとなる考え方や知識を身に付けてもらいたいと思います。仏教者として、バランスのとれた国際感覚は必ず、師寮寺や青年会活動など僧侶として生きる上で大きなアドバンテージとなるでしょう。

これからも私たちは、WFBYでの活動を通して、次世代を担う若手僧侶の皆様が学び、活躍できる国際舞台の創出に邁進する所存です。多くの皆様が国際交流へ参加し、各国の青年仏教徒が持ち続ける仏教徒としての誇りと絆を持ち帰り、将来的に力ある日本仏教の原動力を作り上げるとともに、僧侶として、仏教国際ネットワークを構成する一員として、世界平和の実現に寄与されることを切に祈ります。

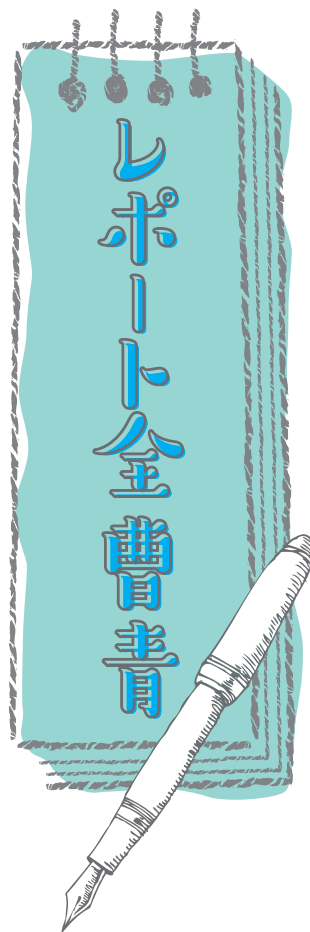
文／広報委員 高柳龍哉

村山博雅師プロフィール

- 昭和46年大阪生まれ
- 慶應義塾大学環境情報学部環境情報学科卒
- 愛知学院大学大学院文学研究科宗教学仏教学専攻博士課程前期修了
- 曹洞宗大本山永平寺僧堂安居
- 幽谷山洞雲寺住職
- 曹洞宗国際布教審議会委員
- 曹洞宗近畿管区教化センター布教師
- 愛知学院大学国際交流センター特任教授
- 世界仏教徒青年連盟(WFBY) 会長
- 世界仏教徒連盟(WFB) 執行役員
- 全日本仏教青年会(JYBA) 顧問
- 全国曹洞宗青年会顧問
- 公益財団法人全日本仏教会(JBF)
- ・国際交流審議会委員
- ・世界仏教徒連盟(WFB) 日本センター運営委員



平成30年大本山總持寺で開催された世界仏教徒会議・世界仏教徒青年会議日本大会記念式典



全曹青の「SDGs」への取り組み

全世界で広がりを見せてつつある「SDGs」の取り組み。多様な色をあしらった円形のバッジをつけた方を見かける機会も多くなってきました。

「SDGs」には図のような17項目の目標が定められています。さまざまな目標がありますが、よく見ると、実はお釈迦さまのみ教えに通じる部分が多くあることに気づかされます。例えば重要な教えである「菩薩行」。「妙法蓮華経」にあるように、仏教では他者への慈悲の心を持つてはじめて仏道となると説いています。『正法眼蔵』の「菩薩薩埵四摂法」巻においても「利行」という言葉で表現され、われわれ僧侶にとつて大事な教えです。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」「ジェンダー平等を実現しよう」……。ほとんどのゴールが「菩薩行」に当てはまると言つて過言ではありません。

また、曹洞宗では実践として、水や食べ物等を尊んでいただくということ、大切に丁寧にいただくということを重視しています。「安全な水とトイレを世界中に」「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさを守ろう」

などはそのような曹洞宗の教えに近いと言えるでしょう。

17項目の目標を意識した行事を企画するよう心がけます。それぞれの行事の企画書には「SDGs」の目標のうち、どれを意識したものか」を表記いたします。「SDGs」の取り組みを念頭にした行動を心がけ、活動に邁進していきたいと思つています。

文／広報委員長 田ノ口太悟



持続可能な開発目標(SDGs)とは

2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、2030年までに「持続可能でよりよい世界」を目指す国際目標です。

17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



全国曹洞宗青年会は SDGs に取り組みます

全国曹洞宗青年会は、『今を創ろう 明日を咲かそう』のスローガンのもと、明日を見据える曹洞宗青年僧侶として「誰一人取り残さない世界」の実現を、「大衆教化の接点」を求めながら力強く進めてまいります。

曹洞宗と SDGs 人権・平和・環境

曹洞宗では、1991年、「人権・平和・環境」のスローガンを定め、これまでさまざまな活動に取り組んできました。現在の私たちから未来に向かって、誰ひとり取り残さない、持続可能な社会の実現に向けて、基本的人権の尊重、世界平和の確立、環境の保全とあわせて、一人ひとりが果たすべき重要な役割の一つが、SDGsに取り組むこととして活動を進めていきます。(曹洞禅ネットより)

令和2年度第2回執行部会・理事会及び 定期評議員会・定期総会



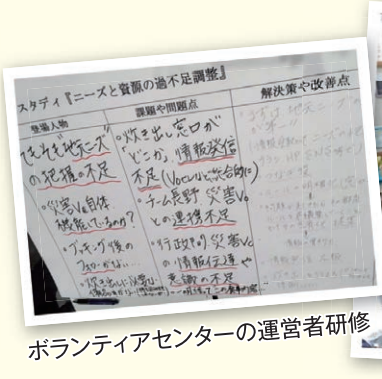
令和2年5月11日・13日の2日間、第2回執行部会・理事会が開催されました。4月の第1回執行部会・理事会から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実際に集まって行う会議ではなく、「ZOOM」を使用したオンラインでの開催となっております。これまで委員会等では経験がありましたが、全曹青の執行部会・理事会としては初めての試みです。パソコンやスマートフォンの画面に会議参加者の顔が映り、臨場感は薄いものの、滞りなく会議を運営することができました。

定期評議員会・定期総会については、あらかじめ資料を各評議員に送付の上、質問の期限日程を定めて質疑応答を受け付けました。そして議案ごとに「承認するかどうか」を記入する返送ハガキで書面決議をいただく形式といたしました。なお、総会決議は評議員会決議をもって替えることといたしました。今後いつまでこの形式によるかわかりませんが、全体の会議進行が円滑なものとなるよう努めます。

文／広報委員長 田ノ口太悟



備える



ボランティアセンターの運営者研修
『鶴見夢ひろば』での炊き出し実演

毎年のように、梅雨の時期から秋にかけて全国各地で豪雨災害などによる被害があります。昨年は私の住む長野県でも大きな被害がありました。避難指示により多くの方が避難所へ行かれたのか? 「どこへ行く?」「何を持っていく?」という判断を事前に行っていないと冷静に対処することが難しくなってきます。ハザードマップや避難所の確認をする、避難物資を備えておくことが必要となります。新型コロナウイルスによる自粛期間中には、大手通販サイトで緊急避難セットが多く売れたようです。

災害関係の研修会ではよく、寺院での避難所開設のお話を聞く機会があります。寺院には十分なスペースがあり、生活に必要なものが備わっているという点が特に注目されています。発災時には被災地域の青年会による復興支援活動が行われております。昨年の長野県の際も地元青年会での活動を連日行いましたが、その際に多くの課題も見つかりました。それは青年会全体におけるスムーズな連絡体制の構築や、ボランティア保険についてなどです。県外からの支援も多く、災害復興支援部が中間後方支援としてマッチングをさせていただきました。

全曹青では保存食料等のストックヤードの整備を進めており、全国15ヶ寺で設置して下さっています。その他、九州管区では独自に各県に設置されています。有事の際にはご協力いただき、より迅速な支援につなげたいと思います。ご協力いただいている皆様には感謝申し上げます。

文／災害復興支援部事務局長 原田恵一

典座

TENZO

映画『典座—TENZO—』 展開報告

映画『典座—TENZO—』 ご協賛返礼DVD完成

この度、製作当初よりご協賛を募る際にお約束いたしておりました、映画『典座—TENZO—』の返礼品DVDがようやく完成に至り、5月よりご協賛、製作関係者へおよそ400枚近くのDVDを順次発送させていたしております。

映画『典座—TENZO—』は、昨年、「カンス国際映画祭批評家週間特別招待部門」に正式出品され、その後もフランス、韓国、チュニジア、ベルギー、イギリス、オランダ、フィンランド、スイスなど世界中の国際映画祭へと出品されてきました。また、映画発祥の地フランスでの劇場公開に至り、映画製作時の第22期スローガン『禅を世界へ、そして未来へ』の通り、本作品を世界中へと発信することが叶いました。また、昨年10月よりも日本国内での劇場公開が始まり、日本各地での上映もされております。ここまで無事に至れたことは、映画事

業に対して製作段階よりご寺院さまや宗門関係の皆さま、またご賛同いただいた多くの方々のご協賛とご支援があつてのことと、この場をお借りし改めて感謝の意をお伝えいたします。

令和2年2月5日には、曹洞宗宗務庁主催「禅をきく会」(よみうりホール)で、第一部は愛知専門尼僧堂堂長の青山俊董老師のご講演、第二部より映画『典座—TENZO—』が上映されました。その後は曹洞宗総合研究センター専任研究員の宇野全智師進行のもと、青山老師、富田克也監督、河口智賢映画事業実行委員長の対談と、多くの来場者に関心をお持ちいただく大変貴重な機会となりました。来場者からは、青山老師が講演で話された典座教訓の三心と、映画の中で語られるいのちの尊さにつ



いて深く考えさせられたなどの感想をいただきました。

翌週、令和2年2月15日には、仏教伝道協会主催「食を通じて仏教を学ぶ」(曹洞宗檀信徒会館)で、第一部は河口委員長による「いす坐禅と法話」、そして映画『典座—TENZO—』が上映されました。続いて第二部では折橋大貴師による「精進フレンチ」の実食と、映画と新しいアプローチの精進料理によって、参加者にこれまでと違った切り口によって仏教を学んでいただく機会となりました。

特別開催
2020年2月15日(土)
時間: 10:30~13:30
場所: 東京グランドホテル
参加費: 4,000円
定員: 70名様

第一部
「いす坐禅」を中心とする
映画『典座—TENZO—』のメイ
クドキュウと、いす坐禅の歴史
映画についてのお話を伺い、つづいて
映画『典座—TENZO—』のメイ
クドキュウと、いす坐禅の歴史
映画についてのお話を伺い、つづいて
映画『典座—TENZO—』のメイ
クドキュウと、いす坐禅の歴史

第二部
「精進フレンチ」とは
精进料理とは、お釈迦さまの
修行生活に由来する、野菜や豆
を中心とした、健康的で栄養
バランスのとれた料理です。

主催: 公益財団法人仏教伝道協会 特別協力: 全国宗徒連合会
小冊子販売: 文芸春秋社 公益財団法人仏教伝道協会 www.bdk.or.jp
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL: 03-3495-5851

現在、映画『典座—TENZO—』の展開状況は、新型コロナウイルスの影響により劇場公開について延期を経て徐々に規模を縮小しての上映が再開しています。世界中が不安定な今だからこそ、仏教の普遍的な価値が必要であると改めて感じます。それを布教伝道するためにも、今後も映画を通じ人々の拠り所の一助となるよう上映活動を続けていきます。

文/映画事業実行委員長 河口智賢

教化委員会からのごあいさつ

全曹青 Real Voice



委員長 森井宗淳

いずも曹洞宗青年会から参加し、今期教化委員長を務めております。第23期教化委員会は諸先輩方が培ってこられた活動を継続しながらも、新たな活動も展開しております。

さらに、年明けから始まった新型コロナウイルス感染症拡大において自分たちにできることは何なのか模索をしながら進んできております。全曹青の事業が、加盟団体さまや関係の皆さま、一般の方に繋がっていくよう残りの任期を委員会一丸となり務めてまいります。



委員 久保尚之

新潟県曹洞宗青年会より参加させていただいております。

委員会内では不本意ながら最年長ではありますが、新人として日々貴重な経験を積ませていただいております。

このような機会に恵まれた事に感謝し、少しでも全曹青のお役に立てるよう精進してまいりますので、何卒よろしくお願いたします。



委員 宮本貴心

宮城県曹洞宗青年会より参加させていただきます宮本貴心と申します。初めての参加ですが皆さんと協力し、様々な活動を行ってまいりたいと思います。2年という期間ではありますが精一杯務めさせていただきます、少しでも成長することができたらと思います。どうぞよろしくお願いたします。



副委員長 菅生泰礼

東三河曹洞宗青年会より参加しています菅生泰礼です。お坊さんをお坊さんたらしめる要素の一つとして法式は非常に重要だと思います。威儀即仏法、作法是宗旨。お坊さんが凛とした姿で肅々と行じる姿はとてまかつて良く、その姿に救われる人もいます。そのような場をつくることは地元の課題であり、全曹青の活動から学ばせていただいております。アプリめちや便利です。



委員 谷本俊道

岩手県曹洞宗青年会より参加させていただきます谷本俊道と申します。今までの1年間の活動は委員長はじめ委員会の方々のおかげでなんとかやってきました。送り出していただいた岩曹青の皆様のためにも、全曹青の教化委員として自分にできる何かを探し、実践していきたいと思っております。何卒よろしくお願いたします。



副委員長 天雨顕成

長崎県曹洞宗青年会から参加させていただいております、天雨顕成と申します。

教化委員会2期目で、前期から貴重な経験をさせていただいたので、これからも、1つでも多くのことを吸収し、人間として成長していきたいと思っております。よろしくお願いたします。



委員 東 秀謙

曹洞宗鳥取県青年会より参加させていただきます東秀謙と申します。

この一年間、全曹青の活動を通して多くの方との出会いがあり、考え方や知識なども勉強させていただき、様々な経験もさせていただきました。

いただいた沢山のものを今後の活動や鳥取県でも生かせるようこれからも精一杯努めてまいりたいと思っております。

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

- ◆長野県1
62 良松寺 様
65 柳原寺 様
87 寶昌寺 様
147 徳應院 様
227 岩松院 様
322 守芳院 様
328 泉洞寺 様
370 日輪寺 様
587 観音庵 様
- ◆長野県2
389 宗福寺 様
420 金松寺 様
441 雲龍寺 様
456 明音寺 様
491 龍勝寺 様
603 長性院 様
605 寂照庵 様
- ◆福井県
164 諦應寺 様
291 福聚寺 様
- ◆富山県
54 大淵寺 様
206 慈眼寺 様
232 佛石寺 様

- ◆新潟県1
368 正通寺 様
382 光照寺 様
477 龍泉院 様
496 長樂寺 様
- ◆新潟県3
557 普広寺 様
- ◆新潟県4
9 東陽寺 様
196 香傳寺 様
817 日照寺 様
- ◆福島県
43 東禅寺 様
79 西松寺 様
99 茂林寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
156 大龍寺 様
175 天澤寺 様
226 常隆寺 様
266 洞雲寺 様
405 勝方寺 様
461 正法寺 様

- ◆宮城県
16 林香院 様
18 東秀院 様
59 清水寺 様
69 見松寺 様
113 繁昌院 様
149 喜松院 様
153 徳本寺 様
214 実相寺 様
371 頼光寺 様
475 城皇寺 様
- ◆岩手県
17 清水寺 様
19 宮澤寺 様
124 西光寺 様
133 大林寺 様
158 願成寺 様
171 光西寺 様
196 建高寺 様
- ◆青森県
40 宗全寺 様
90 高雲寺 様
100 澄月寺 様
183 大乘寺 様

- ◆山形県1
12 正徳寺 様
101 長泉寺 様
- ◆山形県2
322 洞松寺 様
- ◆山形県3
457 永伝寺 様
740 長應寺 様
- ◆秋田県
1 鱗勝院 様
3 蒼龍寺 様
87 慶祥寺 様
206 松雲寺 様
220 雲巖寺 様
244 寶泉寺 様
265 倫勝寺 様
279 宝昌寺 様
302 天昌寺 様
313 立昌寺 様
321 鏡得寺 様
- ◆北海道1
14 廣福寺 様
69 大林寺 様
96 観音寺 様
254 北大寺 様
257 高台寺 様

- ◆北海道2
102 興禅寺 様
248 總泉寺 様
279 西乗寺 様
299 永福寺 様
418 萬台寺 様
419 龍門寺 様
- ◆北海道3
204 開法寺 様
331 潮音寺 様
460 道貫寺 様

インターネット
受付分

- ◆佐賀県
130 廣雲寺 様
- ◆新潟県1
394 常安寺 様
- ◆青森県
80 法門寺 様

ボ ラ ン テ ィ ア 基 金 感 謝 録

2020年4月1日～2020年6月30日取扱い分

三重県 光明寺
広島県 福善寺
鳥取県 山名寺

福島県 曹福青カレンダー委員会
北海道 大林寺

戦略に合ったノウハウを提供し、
企画～提案をサポート致します。

様々なご要望にお応えします!

記念誌・カタログ・ポスター・パンフレット・チラシ・
DM・名刺・封筒等、様々な印刷を承ります。

ホームページを企画～
提案・制作いたします。

お客さまに代わり封筒などに、
封入・セット作業を致します。

発送される際の宛名ラベルの
出力～発送作業も承ります。

SBP 創文社印刷株式会社
〒420-0812 静岡県静岡市葵区古庄二丁目7番16号
TEL.054-265-0870
FAX.054-265-2180 <http://www.sobunsa.co.jp>

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

梅金商店
株式会社

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

(本 社) 〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

賛助費納御芳名簿

2020年4月1日～2020年6月30日取扱い分

◆東京都

105 鳳林寺 様
106 観泉寺 様
171 高岩寺 様
327 新福寺 様
333 雲慶院 様
371 円明寺 様

◆神奈川県2

1 本覺寺 様
5 天徳院 様
15 陽光院 様
16 正観寺 様
150 定方寺 様
394 長尾寺 様

◆埼玉県1

436 陽雲寺 様

◆埼玉県2

248 長泉寺 様
269 常門寺 様
336 永福寺 様

◆群馬県

108 林昌寺 様
144 雙松寺 様
166 光性寺 様
167 祥雲寺 様
244 春昌寺 様
272 海雲寺 様
276 陽雲寺 様

◆栃木県

1 成高寺 様
46 龍昌寺 様
86 妙蕙寺 様
104 洞泉院 様

◆茨城県

39 常安寺 様
134 大統寺 様
160 定林寺 様
182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
22 廣壽寺 様
29 慶林寺 様
60 東伝院 様
93 芳泰寺 様
185 勢國寺 様
296 東善寺 様

◆山梨県

4 青松院 様
286 広教寺 様
332 松岩院 様
406 光福寺 様

◆静岡県1

7 元長寺 様
26 宝珠院 様
50 盤龍寺 様
61 長光寺 様
95 久應院 様
127 楞嚴院 様
388 林叟院 様
463 栄昌寺 様
464 正泉寺 様
495 普門院 様
501 養徳寺 様

◆静岡県2

229 法華寺 様
325 海蔵寺 様
359 禅福寺 様
362 福泉寺 様

◆静岡県3

584 長興寺 様
589 永龍寺 様
609 醫王寺 様
634 光明院 様
989 観音寺 様
1208 法雲寺 様
1225 光明寺 様

◆静岡県4

1025 龍谷寺 様
1061 保福寺 様
1095 天林寺 様
1179 慶雲寺 様

◆静岡県

山本一馬 様

◆愛知県1

18 大蓮寺 様
58 聚福院 様
101 成福寺 様
108 香積院 様
112 太平寺 様
133 瑞泉寺 様
135 光明寺 様
144 白毫寺 様
162 妙測寺 様
173 神藏寺 様
229 寶泉寺 様
293 康勝寺 様
313 長松寺 様
342 常楽寺 様
358 玉泉寺 様
375 春江院 様
605 天徳寺 様
625 宝積寺 様
635 永澤寺 様
1092 地藏寺 様
1241 観音寺 様

◆愛知県2

684 花井寺 様
813 全久院 様

◆愛知県3

431 報恩寺 様
557 楞嚴寺 様

◆岐阜県

15 東林寺 様
28 観音寺 様
38 最勝寺 様
162 清楽寺 様
189 久昌寺 様
190 長久寺 様

◆三重県1

11 真如寺 様
37 四天王寺 様
114 海禅寺 様
246 寶泉院 様
269 大蓮寺 様
276 地藏院 様
287 桃源寺 様

◆三重県2

401 光明寺 様

◆滋賀県

197 寶光寺 様

◆京都府

46 栄春寺 様
67 苗秀寺 様
367 福昌寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

26 天徳寺 様
31 正泉寺 様
98 吉祥院 様

◆兵庫県1

287 向榮寺 様
337 友松寺 様

◆兵庫県2

117 法円寺 様
134 谷松寺 様
170 円通寺 様
217 長福寺 様

◆岡山県

131 済渡寺 様

◆広島県

8 聖光寺 様
33 勝運寺 様
46 雙照院 様
58 宗光寺 様
59 松寿寺 様
76 長福寺 様
93 賢忠寺 様
95 泉龍寺 様
100 中興寺 様
143 常林寺 様
146 福善寺 様
177 功德寺 様
181 東明寺 様

◆山口県

54 昌福寺 様
111 溪月院 様
145 久屋寺 様
175 玉清寺 様
236 飯倉寺 様

◆鳥取県

20 永明寺 様
27 景福寺 様
32 吉成寺 様
78 山名寺 様
133 妙元寺 様
163 雲光寺 様
182 東光寺 様

◆島根県1

315 永明寺 様

◆島根県2

2 永昌寺 様
17 円光寺 様
43 福正寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
119 常光寺 様
187 養善寺 様

◆愛媛県

18 陽春院 様
34 本光寺 様
39 宗光寺 様
143 眞光寺 様
146 興雲寺 様
160 観音寺 様

◆福岡県

26 清善寺 様

◆大分県

8 豊音寺 様
82 多福院 様

◆長崎県1

78 宝泉寺 様

◆熊本県2

78 地藏院 様
88 明德寺 様
104 東向寺 様
122 國照寺 様

◆宮崎県

38 観音寺 様

令和2年7月豪雨へのお見舞い

九州や岐阜、長野など広い範囲で災害をもたらした「令和2年7月豪雨」災害についてお見舞い申し上げます。
 新型コロナウイルスの影響でこれまでのような災害支援が難しい状況ですが、お亡くなりになられた方々のご冥福と、一日でも早く、皆様方の日常生活の復旧・復興が実現されますことを心より祈念いたします。

全国曹洞宗青年会 会長 原知昭

全曹青からの

お知らせ

『坐禅で使える僧侶の英会話』 頒布に向けて鋭意製作中

新型コロナウイルスの感染拡大で落ち着いてはいますが、近年、日本を訪れる観光客の方は増えておりました。観光客の方にとっても魅力的な日本伝統文化ですが、その中心を担う仏教文化、とりわけ「禅(ZEN)」は海外でも通じるほど一般的な言葉になっています。

海外の方がお寺に来たとき、これをどう伝えれば良いか。そんな思いにお応えして、頒布され大変好評いただいております『僧侶の英会話』の第2弾として、以前よりご要望のありました坐禅作法に特化した英会話の本の製作を進めています。

本書は、左に日本語ページ、右に英訳とわかりやすい構成になっておりますので、初めての方にもお使いいただける内容となっております。頒布開始の際には、是非ともご購入の上、参考資料としてお使い下さいますよう、何卒お願い申し上げます。

以下の全曹青公式オンラインショップ (<https://shop.sousei.gr.jp>) でご購入いただけるようになる予定です。

9月の頒布開始を目指しています。

文/国際委員長 村上徹信



『坐禅で使える僧侶の英会話』



全曹青公式
オンラインショップ

青年僧侶の映画レビュー

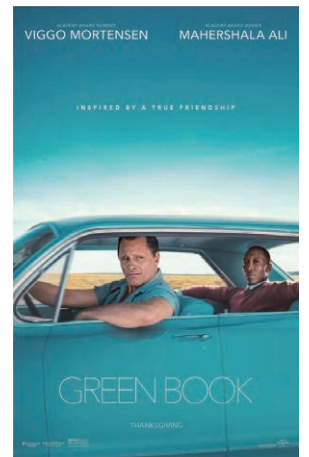
この映画は人種差別が色濃く残る1960年代アメリカ南部を舞台に、黒人天才ピアニストとそこに雇われた白人のボディガード兼運転手が演奏ツアーを通して友情を深めていく感動の実話です。

映画のタイトルにもなっているグリーンブックとは、アメリカのニューヨーク市で一生を過ごしたグリーンという黒人の郵便局員が旅行をする黒人のために、1936~1966年にかけて自費で出版された本にちなんでつけられています。この本の存在を知るだけでも当時の差別がいかに深刻な問題だったかが伝わってきます。

2020年、世界中で新型コロナウイルスが流行しております。その中でも最前線で頑張っている医療機関の方々、また感染された方々やそのご家族への差別が大変な問題となっております。このウイルスは感染して身体を苦しめるだけでなく、たとえ感染しなくても人との接し方を一歩間違えば、人間関係をどんどん悪化させてしまう大変恐ろしい心のウイルスとも言えます。このコロナウイルスはいずれ終息しますが、こういった差別をうけた方々の心へのこの傷は一生消えることはありません。未曾有の危機でも人として本来あるべき姿を忘れずに過ごしていきたいです。

同時に、あらゆる差別問題が少しでも解決にむかえるようにお寺を通して活動していきたいと思っております。

担当/広報委員 松崎 清文



映画『グリーンブック』
2018年/アメリカ

表紙の話

今号では僧侶の新しい一歩に注目しました。
 新たな環境へ、トンネルを抜け一歩を踏み出す姿を撮影いたしました。

撮影地：広島県尾道市 撮影：広報副委員長 菅 悠生